

京都ジュニアカップ適用ルール（女子）

- 1, 大会の級を5級から10級にわけ、選手はこのうちの1つのクラスにエントリーできる。
- 2, 級は年齢に関与せず参加できる。
- 3, 6級の表彰については年齢、参加者数に応じて2部門に分けることがある。
開催年によって参加者数に変動があるためエントリー終了後、年齢の区切り方を検討し、抽選会後に発表する。
(例 4年生以下、5年生以上)
- 4, 各級のルール及び出場の日安は下記の通りとする。

5 級

段違い平行棒・平均台・ゆかの同一技は2回まで承認する。
 難度表にないものはすべてA難度とみる。
 構成はA難度のみとし、宙返りは禁止とする。
 20cm着地マット使用可。(ゆかは不可)
 採点は10.00から行う。(実施減点・要求減点)

跳び箱 中型 4段から6段	2回の跳躍を実施し、よい方のスコアを有効点とする。			減点項目 落下 0.5 姿勢欠点(膝・つま先・肘・着地・ポーズ(始・終)) 0.05~0.30まで 大きさ 0.1 / 0.2 / 0.3 スピード 0.1 / 0.2 / 0.3
		転回	横向き	10.00
		倒立前転	縦向き	9.50
		台上前転	縦向き	9.00
		開脚跳び	横向き	8.50
段違い 平行棒	低棒のみ使用			減点項目 落下 0.5 姿勢欠点(膝・つま先・肘・着地・ポーズ(始・終)) 0.05~0.30まで 大きさ 0.1 / 0.2 / 0.3
	要求 各0.3 × 5個	逆上がり 後ろ回り 前回り フット下り 2つの異なる連続技		
平均台 高さ 110cm	演技時間1分以内・台下に20cmマットを使用可			減点項目 落下 0.5 姿勢欠点(膝・つま先・肘・着地・ポーズ(始・終)) 0.05~0.30まで 流れ(全体) 0.1 / 0.2 / 0.3 タイム 0.1
	要求 各0.3 × 5個	バランス 前転 180度ターン(片足) ジャンプ(抱え込み・伸身) 終末技(ロンダート・転回)		
ゆか 方向あり	演技時間1分以内 曲あり・なしどちらでも可			減点項目 転倒 0.5 姿勢欠点(膝・つま先・肘・着地・ポーズ(始・終)) 0.05~0.30まで 流れ(全体) 0.1 / 0.2 / 0.3 タイム 0.1
	要求 各0.3 × 5個	360度ジャンプターン 側転 倒立前転 ブリッチ技 アクロバット技(他と兼ねてもよい)		

6 級

段違い平行棒、平均台、ゆかの同一技は2回まで承認する。
 構成はA難度のみとする。
 その他については2022年版採点規則(変更II)に準ずる。
 平均台・ゆかについて、変更IIで認められている要素はCRとして認められる。

跳 馬	器具：高さ 105cm		段違い平行棒	器具：高さ 高棒255cm 低棒175cm
	(1) 2回の跳躍を実施し、よい方のスコアを有効点とする (2) 2.00ポイントまでの跳躍技に限る (3) 難度表にない技については次の通りとする		(1) 難度点 終末技を含む5要素以上、最大8要素まで数える (2) CR 全ての選手に2.00を与える (3) 短い演技 4要素以下の場合のEスコアの最高点 4要素：6.00 3要素：5.00 2要素：4.00 1要素：3.00 (4) 逆上がり・フット下りは1要素として認める	
	跳躍技	Dスコア		Eスコア
	台上前転	1.00		5.00からの減点
平均台	器具：高さ 125cm 台下に20cmマットを使用 20cm・10cm着地マットを使用可(2枚重ね可)		ゆ か	
	(1) 演技時間 1分30秒以内 (2) 難度点 終末技を含む5要素以上、最大8要素まで数える (3) CR 難度表にある要素には0.5 難度表にない要素には0.3を与える ① 難度表にあるリープ・ジャンプ・ポップの要素を1つ(伸身・かかこみ可) ② 片足上のターン(180度以上) ③ 前方/側方のアクロバット系要素(前転可) ④ 後方のアクロバット系要素		(1) 演技時間 1分30秒以内 (2) 難度点 終末技を含む5要素以上、最大8要素まで数える (3) CR ① 前後/左右開脚または開脚屈身姿勢を伴う跳躍技 ② 片足上のターン(360度以上) ③ 前方/側方のアクロバット要素(前方倒立回転・側転可) ④ 後方のアクロバット要素(後方倒立回転可)	

7 級

府民総体規則(小学生普及クラスルール)を適用する。

8 級

近畿ジュニアCクラス規則(近畿変更規則)を適用する。 近畿JrCクラスレベル

9 級

日本体操協会2022年版採点規則(変更規則II)を適用する。 近畿JrBクラスレベル

10 級

日本体操協会2022年版採点規則(変更規則I)を適用する。 近畿JrAクラスレベル